

ピアニスト ジェローム・グランジョン略歴

あくなき好奇心と高い理想をもつ芸術家ジェローム・グランジョンの音楽活動には3つの軸がある。ソリストとしての活動、室内楽、音楽教育である。

国立パリ高等音楽院（CNSM）でジャック・ルヴィエとジャン・ユボアのクラスに学び、ピアノ科、室内楽科を一等で卒業。*Ciità di Senigallia* 国際ピアノコンクール入賞。同時に、伴奏と作曲を学ぶ。パスカル・ドヴォワイヨン、マリア・クルチオのもとで研鑽を積んだ後、奨学金を得てカナダのバンフ・センターに一年間学び、パウル・バドラー・スコダらと出会った。



若くしてその音楽的才能を注目されたジェローム・グランジョンは、数多くのリサイタルやオーケストラとの共演に招かれ、ヨーロッパ各地、アメリカ合衆国、ブラジルなどで演奏してきた。（パリ・シャトレ座でフランス放送フィルハーモニー管弦楽団と、リスボンで Gulbenkian 財団オーケストラ、モスクワ・ソロイストと...）。リール国立管弦楽団との 2004 年ピアノフェスティヴァルでの演奏は『フィガロ』紙でクリスチャン・メルランに「若きジェローム・グランジョンの堂々たる筋の通った演奏をまず聴くべし」と絶賛され、バイロイトでのコンサートで録音されたガーシュウインのへ長調のコンチェルトについてアレクサンダー・ディックは「作品にふさわしい演奏家がついに現れた」と書いた。ジェローム・グランジョンはまた、ドイツ・グラモフォンでプーランクの『ぞうのババール』を録音している。文学と音楽との融合の可能性を探って、作家であり俳優であるフレデリック・スーナックとシューマン、ショパン、チャイコフスキーをめぐるコンサートも行っている。

室内楽のパートナーには、マリア・ジョアオ・ピリス、オーギュスタン・デュメイ、ジャン・エリオット指揮のモンテヴェルディ合唱団などが数えられる。2003 年から、ヴァイオリニスト、サスキア・ルチェックとチェリスト、エリック・ピカールと共に＜ホボケン・トリオ＞を結成し、ハイドンから現代曲まで、幅広いレパートリーを演奏している。Lyrinx から出たハイドン、スメタナ、ドヴォルザークのピアノ・トリオ作品の録音は、数々の賞に輝いた（****Classica, 5ディアパゾン等）。2011 年には Alpha から Lucien Durosoir の作品を収めた CD がリリースされる。また彼らはアコーディオン奏者のリシャール・ガリアノともフランス音楽を演奏している。

ジェローム・グランジョンは、自身の経験を後進に伝えるべく、教育活動も行っている。2000 年から 2004 年、ベルガイシュ芸術センターでマリア・ジョアオ・ピリスのアシスタントをつとめ、フランス、韓国、スペイン、ブラジルでマスタークラスやワークショップを行っている。現在、フランス国立ローマンヴィル音楽学校ピアノ科、室内楽科教授である。

(2011 年 1 月)